

平成28年11月14日

第19回 福岡県地域エネルギー政策研究会 日下座長 総括コメント

- 本日、第19回福岡県地域エネルギー政策研究会を開催し「長期エネルギー需給見通し（エネルギーミックス）を踏まえた今後の地方の取組み」として、「水素を本格的に利活用する水素エネルギー社会の実現」について議論を行いました。
- 今回の研究会では、まず事務局から「これまでの経過」として、前回の議論の概要や県が9月に設置した「エネルギー政策推進本部」について、報告がありました。
- 次に、日本エネルギー経済研究所の柴田研究主幹から、「水素エネルギー社会の実現と再生可能エネルギー由来水素の展望」について、ご講演をいただきました。講演では、シンクタンクのお立場として、水素社会の実現性をはじめ、再エネ由来水素の電力貯蔵システムの開発に向けた様々な課題について、貴重な情報をご提供いただけたと、柴田研究主幹には感謝しております。
- 次に、県商工部から、研究会の提言を踏まえ進められている「水素エネルギー社会の実現に向けた福岡県の取組み」について、報告がありました。
- 次に、佐々木委員から、学際融合連携を図るため10月に設置された「九州大学エネルギー研究教育機構」と、これから取り組まれる再エネ利用水素エネルギー研究について、情報提供していただきました。
- 次に、北九州市の古田委員代理から、現在、取り組みが進められている「風力発電関連産業の「総合拠点」を目指して」について、情報提供していただきました。
- 次に、これらの講演・情報提供を基に、水素を本格的に利活用する水素エネルギー社会の実現に向けて、地方が果たすべき役割について委員間で討議を行いました。
- 最後に、当研究会の今後の活動について決定しました。
- 各委員からの積極的な意見・助言により、「長期エネルギー需給見通しを踏まえた今後の地方の取組み」として、水素を本格的に利活用する水素エネルギー社会の方向性が明確になりましたので、県をはじめ各主体におかれては、今後の取組みに活かしていただきたいと思いますと考えております。